

さぬき市教育事務点検評価委員会（第1回） 会議要旨

- 1 日 時 平成30年7月19日（木） 9：52～12：16
- 2 場 所 さぬき市教育委員会2階会議室
- 3 出席者 【委員】宮本 強 三井重彰 渡邊千栄美
 【事務局】安藤教育長 中野教育部長 間嶋教育総務課長
 山下学校教育課長 渡邊学校教育課主幹
 細川生涯学習課長 富田幼保連携推進室長
 梶谷教育総務課副主幹

欠席者 無し

傍聴者 無し

- 4 議 題 (1) 教育委員会の事務の点検及び評価制度の趣旨等について
 (2) 教育委員会の事務の点検及び評価報告書の内容について
 (3) その他

5 会議の内容

発言者	意見概要
教育部長	少し時間は早いようですが、皆さんおそろいですので、ただ今から第1回目のさぬき市教育事務点検評価委員会を開会します。
教育長	最初に、安藤教育長から御挨拶を申し上げます。
教育部長	(教育長挨拶) それでは、内容に入ります前に、教育委員会事務局の職員が本年4月の異動で管理職が変わっておりますので、ここで御紹介したいと思います。
教育総務課長	(教育委員会事務局職員を紹介)
教育部長	それでは、「教育委員会の事務の点検及び評価制度」の趣旨説明を、事務局からいたします。
各課長	(点検・評価の趣旨について説明した。) 続きまして、報告書の内容説明を各担当課長及び室長からいたします。 (各施策の個別評価・成果と課題・改善策について説明した。) (平成29年度に実施した施策の点検評価総括表について説明した。) (教育委員会の活動状況及び資料について説明した。)
教育部長	以上で、内容の説明は終わりましたが、次に、質疑応答に入りたいと思います。事前に御質問をお寄せいただいた委員の方もおられますが、それも含めて、順番に、御質問があれば御発言いただきたいと思います。
委員	5ページの1(2)「『確かな学力』を培う学校教育の充実」について、ゲーム・テレビの時間が長くなり、そのために寝る時間や起床時間が遅くなるという悪循環となっているようです。これについては、学校としても保護者への啓発をしていると思いますが、さらに今後どのように取り組んでいくのでしょうか。 続いて、7ページの1(5)「教職員の資質向上」について、教職員の研修と

<p>学校教育課長</p>	<p>ということで、校種間連携や校内の研修など、いろいろ実施していますが、個々の教職員の資質を向上するために、指導案による指導については、どのように取り組んでいるのでしょうか。</p> <p>次に、2（1）「郷土に学び、郷土を愛する環境づくりの推進」について、これは、感想になりますが、春先に旧鶴羽小学校で「ふるさと古墳まつり」というイベントがありました。地域と施設とが一体になり、非常に盛況でした。また、資料もきれいに整理整頓されており、ボランティアの方が説明をしていました。こういったところで学習する機会があればよいと思いました。</p> <p>次に、3（1）「人権学習実施団体間の連携強化と市民への学習機会・学習情報の提供」について、ポスター、書写の応募数が多かったということですが、これは「A」評価にふさわしい内容だと思います。こういう人権週間などにかかわらず、地域の文化祭や男女共同参画週間の展示会、あるいは、辛立文化センターにおける夏のつどい、冬のつどい等においても、子どもたちの作品がたくさん出ています。子どもがこのような機会に関心を持ち、作品を出すことは、大人の関心を高めるきっかけにもなっているので、非常に良い活動であると思います。</p> <p>次に、13ページの4（1）「安心・安全な学校づくりの推進」について、「学校危機管理体制の点検と推進」として、弾道ミサイル発射に係る対応マニュアルが作成されたということですが、このマニュアルに基づいて実際に行動をしたことがあったのか、お聞きしたい。</p> <p>また、同じく学校の危機管理に関連して、7月の大雨で市内の子どもたちへの影響はなかったのでしょうか。また、市内の幼保小中の施設の中で、危機管理上、教育委員会が最も注意を要する施設はどこなのか、お聞きしたい。</p> <p>また、子どもたちの登下校の様子を見てみると、かばんが非常に重そうに見える。体の小さい子どもにとっては、とっさの時の行動がとりにくいのではないかと感じたのですが、そのことについてのお考えがあればお聞きしたい。</p> <p>2020年にパラリンピックが開催されることに関連して、全国的に障害者のスポーツへの参加奨励が言われていますが、特別支援学校ではなく小・中学校に在籍している、障害のある子どもの、放課後以後のスポーツへの参加状況は、どのようになっているのでしょうか。学校の体育の授業では、いろいろと工夫がされていると思いますが、障害のない子どもがスポーツ少年団などに参加するのに対して、障害のある子どもたちは、どのような形で参加しているのか。又は、全くそういう児童生徒は、いないのか。状況をお聞きしたいと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>まず、家庭での生活習慣についての御質問についてですが、学級ごとの懇談、PTAの保護者総会等の機会に学校において指導しております。特に中学校になると、ゲームもありますが、スマホの影響も出てきます。そういったことも含めて注意喚起はしていますが、ただ、家庭においてその趣旨を理解していただいて、指導できているかというと限定的なところがあるのではないかと思います。市教委から学校に対しては、折を見て、指導の徹底をお願いしますという指導をしていきたいと考えています。</p>
---------------	---

<p>学校教育課 主幹</p>	<p>教職員の資質向上に関して、特に指導案を作成することが大事なのではないかという御意見をいただきました。市独自の学校訪問を実施しており、その際に、各学校からは指導案を提出してもらっています。それとは別に、市独自の初任者研修を実施しており、主任指導主事が学校に行き、初任者に指導、助言、アドバイス等をしています。通常の学校訪問に加えて、もう一回、学校訪問時に指導案を書くという方向で取り組んでいます。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>12ページの人権の関係ですが、作品募集については、今後も継続的に実施していきたいと思います。辛立文化センターの夏・冬のとどい、さぬき市人権・同和教育研究大会、人権週間での掲示が主になっていますが、もう少し掲示できる場所、期間を検討し、多くの方に見ていただけるようにしていきたいと思います。</p> <p>次に、危機管理の関係ですが、弾道ミサイルに関するマニュアルは、作成はしましたが、それに基づく実際の行動は、一切ありません。これについては、国から示されているマニュアルに沿った形で作成したのですが、学校にいるとき、登下校中にどういう対応を取るかということマニュアル化しています。登下校中については、教員から児童生徒に対し指導をしています。</p> <p>次に、今回の豪雨に際しての対応ですが、5日に香川県西部で警報が発表され、その時点ではさぬき市は注意報であったのですが、その後警報が発表される可能性が高いということで、小学校については給食後下校しています。中学校については部活動を中止して下校ということで、下校を早める対応をとりました。6日の金曜日については、午前5時49分だったと思いますが、警報が発表されましたので、臨時休校としています。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>施設に関しては、これまで学校再編等で整備されてきた施設に関しては、危険要因は、おおむね排除できていると思います。ただ、長尾の小学校、中学校、造田小学校については、耐震改修は行っていますが、施設そのものの老朽化が進んでいることから、雨漏り等が発生している状況です。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>続いて、登下校中のかばんの件ですが、確かに数年前と比べると重くなっていると思います。教科書等がA判になって大きくなった関係もあります。また、中学校は、教科書以外のテキスト等も入っていますので、危険なときにとっさに反応できないということは、あると思います。ただ、授業で必要なものを入れていきますので、学年に応じたものになるように、学校の方で注意深く見守っていききたいと思います。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>障害のある児童生徒のスポーツへの参加に関する取組ですが、学校教育の方としては、特段の取組というのはありません。</p> <p>生涯学習の方では、子ども限定ではなく、大人については、障害者でも参加できるニュースポーツとしてありますので、スポーツ推進員がその指導をできるように勉強してもらって、それを教えていくという事は行っています。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>学校では、身体的な障害がある子どもも数名いますが、その方がスポーツに取り組んでいるという報告は、今のところありません。</p> <p>以上です。</p>

<p>委員 委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>私も何点か質問させていただきたいと思います。</p> <p>その前に、政策課の方で「さぬき市総合計画のためのアンケート調査」というのが今年の1月に実施されており、その結果を見ると、市の政策の6分野に関する満足度というのがあります。その中で、4番目の「学ぶ意欲と豊かな心を育むまち」という項目が教育に関する分野に該当すると思うのですが、満足度が高く、不満がないという結果になっています。このことは、教育に関する取組が適切に行われているという市民の評価によるものだと思いますので、今回の事務点検評価においても、「A」が多くなっているのは納得するところです。</p> <p>5ページの1(1)「特色ある学校(園)教育活動の創造と開かれた学校経営の推進」のうち「各学校(園)が目指す『特色ある教育活動』の把握と支援」ですが、これは「A」評価が適切な評価だと思います。次の「さぬき市全体で目指す『特色ある教育活動』の推進」に関して、学習状況調査時の質問紙調査の結果、読書を楽しむ児童生徒の割合が低いということですが、これは生涯学習の「読書を通じた学びへの支援」にも関連するのですが、朝読も実施しているし、図書館活動も充実している。それでも、なぜ、読書を楽しむ児童生徒の割合が低いのか。その理由を教えてくださいたいと思います。</p> <p>次に8ページの1(7)「学校規模と配置の適正化及び施設整備の推進」のうち「安心・安全な学校施設の整備と充実」に関連して、公立小・中学校におけるブロック塀の異常・違反についてですが、さぬき市の状況と今後の対応について教えてください。</p> <p>次に13ページ、4(2)「幼児・児童・生徒や保護者を支援する教育相談等の充実」に関連して、さぬき市のいじめの認知件数の推移等を教えてくださいたいと思います。</p> <p>それから順番が逆になりますが、4(1)「安心・安全な学校づくりの推進」のうち「学校安全コミュニティ事業の実施」に関連して、さぬき市の教育用システムに係るセキュリティシステムの更新状況について教えてください。</p> <p>次に、県の子ども女性相談センターの発表が新聞に掲載されていましたが、さぬき市における児童虐待の認知件数等を教えてください。</p> <p>次に15ページ、4(6)「食育の推進」に関連して、『平成30年度さぬき市の教育』によると、給食栄養量の対基準値充足率は良好で、幼、小ともに全く問題がないのですが、中学校のカルシウムとマグネシウムだけが基準値を満たしていない。その理由を教えてください。</p> <p>次に16ページ、「早寝早起き朝ごはん運動の推進」に関して、小児生活習慣病健診時の就寝時間と起床時間の実態から、早寝早起きの実践が不十分ということですが、前回の起床時間に関する数値を教えてください。</p> <p>最後に、非常に言いにくいのですが、誤字脱字が多いので注意してほしい。</p> <p>教育用システムのセキュリティに関してですが、学校関係の教育用パソコン、校務用パソコンについては、平成28年度にサーバー自体を更新しており、以後、セキュリティについても随時の更新を行っています。各端末についても、ソ</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>教育用システムのセキュリティに関してですが、学校関係の教育用パソコン、校務用パソコンについては、平成28年度にサーバー自体を更新しており、以後、セキュリティについても随時の更新を行っています。各端末についても、ソ</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>フトウェアの更新を行っていますので、一定のセキュリティは確保されていると考えています。ただ、学校現場における活用の内容によっては、データの出入りを一定以上厳しくすることができないので、必ずしも万全とは言い難いところがあります。</p> <p>5ページの読書の件についてですが、平成29年度の調査において、小学校5年生から中学校2年生までを対象とした質問の中で、「読書は好きですか。」という質問に対しては、75.3パーセントの児童生徒が「好き」と回答しています。県の平均と比較しても0.7ポイント高い数値となっています。平成28年度の調査においては、県平均より0.7ポイント下回っておりましたので、少し上昇傾向にあるということです。ただ、同じ質問用紙の中で、「学校の授業以外に1日どれくらいの時間、読書をしますか。」という質問に対して、30分以上読書をしている児童生徒の割合が46.3パーセントという結果になっています。市内児童生徒の半数が、1日の読書時間が30分以下であり、学校以外ではほとんど読んでいない子が半数以上いるということが明らかになっています。また、「本を読んだり、借りたりするために学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。」という質問に対しては、週に1回から4回行くと回答した児童生徒が25.8パーセント、4分の1しかいないという状況です。このようなことから、読書を楽しむ児童生徒の割合が少ないのは、学校の図書室や地域の図書館へ行く機会が少ないため、自分の好きな種類の本ばかりを読んで、様々な種類の本との出会いが少ないのではないかとすることも明らかになっています。今後とも、少しでも読書を充実させるため、学校では教室にも学校図書室の本を置いて推進しています。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>次に、8ページの「安心・安全な学校施設の整備と充実」に関連して、市内のブロック塀の件ですが、報道以後の追跡調査の結果、幼稚園で1園1か所、小学校で3校4か所のブロック塀及びブロック造りの囲いについて、危険個所として市の危機管理室に報告しています。うち2件については、ブロック塀からフェンスに改修済みであり、残り3件についても早期に対応すべく、努めています。</p> <p>また、通学路の点検についてですが、通学路沿いのブロック塀に関しても、各学校を通じて現在調査中であり、結果が出た後、市の政策的な対応になってくるものと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>次に、いじめの認知件数ですが、平成25年度からの数値を申し上げます。平成25年度は、小学校が6件、中学校が5件です。平成26年度は、小学校が13件、中学校が3件です。平成27年度は、小学校が12件、中学校が7件です。平成28年度から少し増えてきます。平成28年度は、小学校が21件、中学校が15件です。平成29年度は、小学校が53件、中学校が18件です。いじめ認知件数のこのような推移は、法律の施行や基本方針の周知等で、いじめの小さい兆候からでも件数に反映するようになったことから、平成28年度からの増加につながっています。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>次に、さぬき市の虐待認知件数についてですが、子育て支援課からの資料として、さぬき市家庭児童相談室における相談件数ですが、平成29年度は、身体的</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクトの合計で30件となっています。平成28年度は21件、平成27年度が36件、平成26年度が38件、平成25年度が33件、平成24年度が42件、平成23年度が47件となっています。このうち、面前DVに関しては、平成27年度が3件、平成28年度が2件となっています。</p> <p>次に、学校給食の給食栄養量についてですが、まず、カルシウム、マグネシウムの学校給食の基準値が他の栄養素より、元々高く設定されています。カルシウム、マグネシウム以外の栄養素は、1日の必要量の3分の1と設定されています。しかし、カルシウム、マグネシウムについては、家庭での摂取不足が想定されることから、1日の必要量の2分の1という高い基準の設定がされています。</p> <p>また、さぬき市の学校給食の献立は、小学校の中学年、8歳、9歳の給食を基本として献立を作成しており、中学生については、その1.3倍を給食提供量としています。この1.3倍の提供量で、他の栄養素については充足するのですが、カルシウム、マグネシウムは、基準値の設定が高いことから、この提供量では基準値を充足しない。特にマグネシウムについては、小学校中学年の基準値が80ミリグラムであるのに対して、中学校の基準値は140ミリグラムと、1.75倍の設定となっていることから、給食の提供量を1.3倍にしたのでは届かないということになります。</p> <p>さらに、マグネシウムを多く含む食品としては、ナッツ、豆類、海藻、そばなどがあるようですが、これらの食品をメインに使うことは少なく、少量しか使わないということも基準値を充足しない要因としてあります。また、カルシウムを多く含む牛乳、ヨーグルト、チーズなどの乳製品も、アレルギー特定原材料であることから、これらの使用頻度が多くないことも一つの要因となっています。また、牛乳は、小学校でも中学校でもビン一本で量が同じであり、1.3倍にはなっていません。</p> <p>これらの理由から、カルシウム、マグネシウムが基準値に満たないという結果になっています。</p> <p>次に、16ページの小児生活習慣病の起床時間についてですが、平成27年度の起床時間のデータは、男子が41.7パーセント、女子が44.5パーセントです。女子は平成27年度と平成28年度ではほぼ変わらないのですが、男子は3ポイント悪くなっています。</p>
<p>委員 委員</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは質問させていただきます。</p> <p>まず、6ページの1(4)「特別支援教育の推進」に関して、支援を要する子どもの人数など、現状を教えてください。</p> <p>次に、9ページ、1(9)「ライフステージに応じた多様な生涯学習の推進」に関して、公民館や類似施設の使用料や必要性について、いろいろ検討しているようですが、今後の予定などを教えてください。</p> <p>次に、13ページ、4(1)「安心・安全な学校づくりの推進」のうち「学校</p>

	<p>危機管理体制の点検と推進」に関連して、学校施設の中には、避難場所になっているところもあると思いますが、地域と合同の避難訓練などを行っている事例があれば教えてください。</p> <p>次に、15ページ、4（4）「体力づくりの推進」のうち「中学校部活動への支援」に関して、教職員の働き方改革や、熱中症の問題にも関わってきますが、部活動の時間に制限などがあるのか、教えてください。</p> <p>次に、16ページ、4（7）「青少年の健全育成と学校外活動の充実」のうち「少年育成センターの機能の充実」に関連して、適応指導教室への現在の通級生の人数を教えてください。また、適応指導教室へ来ていない方の現状、フリースクールへ行っている子どもがいるのかといったことを教えてください。</p> <p>7ページ、1（4）「特別支援教室の推進」に関して、幼保連携について、就学支援シート等がうまくいかされていないということですが、これは幼稚園から小学校、中学校まで引き継がれていくものなのか、内容を教えてください。また、今後どのように改善していくのか教えてほしいと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>6ページの特別支援教育の推進に関して、支援を要する子どもの現状ということですが、どこを基準に支援を要する子どもとするか、難しいところがあります。一つの基準として、就学指導委員会に係る一次調査の対象となる子どもと特別支援学級に入級している子どもの人数を報告します。</p> <p>中学校で平成29年度は42名、平成30年度は56名。小学校で平成29年度は150名、平成30年度は172名。幼稚園で平成29年度は33名、平成30年度は36名となっています。また、支援の内容は、小・中学校においては見守り、声掛け、学習支援などを行っています。</p> <p>次に、学校の、避難所、緊急避難場所への指定についてですが、避難所及び緊急避難場所に指定されている小学校は5校、津田、さぬき南、神前、長尾、造田の5校です。中学校ではさぬき南、志度の2校です。幼稚園では志度、寒川の2園です。</p> <p>これらの避難所に指定されている学校のうち、地域との合同で防災訓練を行っている学校ですが、神前、長尾、造田小学校の3校が実施しています。本年度、さぬき南小学校とさぬき南中学校と地域とが合同で訓練を実施する予定と聞いています。</p> <p>次に、中学校の部活動の活動時間ですが、平日の部活動の時間は、夏と冬で変わります。夏は、午後4時から6時半の約2時間半程度の活動時間です。冬は、午後4時から午後5時までの1時間程度となっています。土日休日については、午前か午後のどちらかで3時間半というのが多いようです。また、現在、教職員の働き方改革等のこともあり、部活動の休止日を各学校で設定しており、3校とも月2回日曜日を休むこととしています。平日については、さぬき南中学校が週1回、志度中学校と長尾中学校が月1回程度、平日も休止することとしています。</p>
<p>委員</p>	<p>今説明のあった部活動の活動時間というのは、実際に守られているのですか。土日休日は、午前か午後どちらかということでしたが、1日中活動している部活</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>もあると聞いているのですが。</p> <p>特定の部活のことだと思うのですが、一応これを基本として、練習試合等で1日する場合もありますし、実際には、これを超えている場合もあると認識しています。強制はしていませんので。</p>
<p>委員 学校教育課長 委員 教育長 生涯学習課</p>	<p>決定権があるのは、校長先生なのですか。</p> <p>学校教育活動の一部なので、校長の許可を得て行っています。</p> <p>委員会からの指導などは行っているのですか。</p> <p>各校に対して指導するのではなく、校長会で協議しています。</p> <p>公民館等の使用料の見直しについてですが、今年度、政策課が中心となって見直しの協議を行っています。できれば、今年度中に公民館施設と体育施設の料金の統一、見直しをしたいと考えています。公民館については、面積で部屋を分類し、全公民館を統一したいと思っています。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>次に、育成センターの関係で、適応指導教室FINEの通級生の人数ですが、今日現在で小学生7人と中学生6人の13人が通級しています。平成29年度は、小学生8人と中学生6人の14人で、ほぼ同じ人数となっています。FINEに通級していない人については育成センターから通級を促すようにしていますが、行事だけ参加できるような子どももいますので、なるべく通級できるように、そして、学校に通えるように取り組んでいます。フリースクールについては育成センターでは把握していませんし、育成センターから案内するようなことはしていません。</p>
<p>幼保連携推進室長</p>	<p>フリースクールに通っている児童生徒で、学校教育課で把握しているのは、現在4名です。中学生2名、小学生2名については確認しています。</p> <p>幼稚園生活補助員の関係ですが、支援を要する子どもの人数については、先ほどの小・中学校の場合と同じく、何をもちいて支援を要するところか難しいところがありますが、一応、予算編成時期に各園から生活補助が必要であると報告のあった子どものうち、幼稚園担当職員が確認した人数としています。ただ、子どもの状況によって、必ずしも1人に1人の生活補助員が必要ということではありませんので、仮に、支援を要する子どもの人数が増えたからといって、生活補助員の人数がそのまま増えるということにはならないということを御理解いただけたらと思います。</p> <p>平成29年度は、支援を要する子ども33人に対し生活補助員が16人、平成30年度については、子どもの人数は36人に増えていますが生活補助員は15人に減少しています。</p> <p>次に、就学支援シートについてですが、平成26年度に津田小学校、平成27年度に希望する小学校、平成28年度から全小学校を対象に、幼稚園から小学校に入学する子どもに関して、小学校において配慮してもらいたい事項等を記入したものが就学支援シートになります。就学支援シートの作成に当たっては、担任の教諭、講師と保護者及び早期支援コーディネーターとの3者で作成するということから、記入した内容については保護者の方も見ることになります。ということは、本来、幼稚園の担任の先生が小学校に申し送りたい事項を書きにくいとい</p>

	<p>うことがあります。また、保護者の同意がなければ作成しないということになっていますので、幼稚園から申し送りたいことがあるのにそれができないということもあります。特に、就学支援シートを作成した子どもに関しては、3学期ごろに小学校の先生に引き継ぐのですが、人事異動の関係で、シートを使って引継ぎを行った先生が異動になり、結果として、いかされていないというケースもありました。</p> <p>そこで平成30年度については、就学支援シートという形ではなく、担任の先生がそれまでに早期支援コーディネーター等と協議した内容を伝える方法とそのタイミング、年度末が良いのか、年度当初が良いのか等を検討したいと考えています。</p>
委員	<p>就学支援シートという形によらずとも、先生が子どもたちを見て、感じたことなどを伝えることはできるということですね。</p>
教育長	<p>それは、今までもしてきています。連絡会というのを作って、重点的にそういった問題についての会を持っています。このシートを作ったのは、子どもの過去の様子を知ることができるという意味もあつてのことであつたのですが、保護者の方の中には、あまり良い感情を持たない人もいます。したがって、それはそれとして、学校としては、小学校に入学してくる子どもについて、詳細を知るような会を持つように指導しています。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>
教育部長	<p>よろしいですか。他の委員さんで、御質問等は、ありませんか。</p> <p>また、御意見の方を作成していただく上で、御質問等があれば事務局のへ問い合わせさせていただけたらと思います。</p>
教育総務課長	<p>その他の項目について、事務局から説明します。</p> <p>(意見書の作成・提出について説明した。)</p>
教育部長	<p>それでは以上をもちまして、第1回目の教育事務点検評価委員会を閉会したいと思います。</p> <p>どうも長時間にわたり、熱心な御審議、ありがとうございました。今後とも、よろしくお願い申し上げます。</p>